

令和 8 年度 事業計画書

学校法人

戸板学園

目次

1. 令和8年度学園の基本方針
2. 中期計画の概要（令和6年度～令和10年度）
3. 教育研究に係る重点事業
 - （1）戸板女子短期大学
 - （2）三田国際科学学園中学校・高等学校
4. 管理運営に係る重点事項
 - （1）事業部制の推進
 - （2）人事
 - （3）施設整備
 - （4）収支改善
5. 令和8年度 予算編成方針と計画の概要
 - （1）予算編成方針
 - （2）予算の概要
6. 入学定員・収容定員

1. 令和8年度学園の基本方針

学校法人戸板学園の戸板女子短期大学および三田国際科学学園中学・高等学校は、数年前までの長期低迷から急速に立ち直った（平成22年度短大1年生83名、平成26年度中学1年生23名）。

短期大学は、女子の社会進出支援という女子高等教育機関本来の役割を前面に打ち出し、短期大学冬の時代にあっても高い定員充足率を維持してきた。令和7年度においては入学定員割れとなったものの、令和8年度は食物栄養科の募集停止分を他学科で補い、入学定員を充足する見込みである。

令和9年度からは「スマート・カスタムメイド・カレッジ」として、学びを自由にデザインできる教育モデルを打ち出すとともに、服飾芸術科を「ファッション・ビューティー総合学科」へと名称変更し、さらなる改革の加速を図る。

中学・高等学校は、社会の変動に合わせて女子校から共学校へ移行し、校名を変更するとともに、世界標準の教育を行う学校として21世紀型教育へ大きく舵を切った。令和7年度には三田国際科学学園中学・高等学校として新たなスタートを切り、ラボ棟「Zero to One（ゼロワン）」も竣工するなど、改革をさらに加速させている。

少子化（厚生労働省発表：令和7年出生数70万5,809人）に加え、高等教育無償化、大学入試改革、大学入学定員厳格化の緩和等の影響により、学校間競争は今後さらに激しさを増すと見込まれる。また、少子化の進行に伴い、人材獲得競争も激化している。

このような環境下で発展を続けていくためには、教育ニーズの変化を的確に捉え、時流に合った教育コンテンツの見直しを継続的に実施するとともに、人財投資を含む教育投資を積極的に行っていく必要がある。また、投資財源を確保するため、各学校の効率化と生産性向上によって収益性を高める取組を進めていく。

2. 中期計画の概要（令和6年度～令和10年度）

① 中期計画方針

財務の安定、人財・組織の安定を見据え、各部署において業務を推進する。

② 目標値

・戸板女子短期大学

入学定員確保 充足率 100%

退学率抑制 5.0%未満/年間

高就職率（希望者ベース）維持

日本短期大学協会集計値（東京平均）超え

・三田国際科学学園中学校・高等学校

実受験者増・入学偏差値の前年比上昇（質の向上）

難関国内大・海外大への進学者前年比増

在校生徒の学習活動・研究活動の充実

入学満足度 100%、卒業満足度 200%

③ 中長期的な戦略

・戸板女子短期大学

教育研究の質の向上および充実、学生支援の充実、グローバル化の推進、社会貢献と地域連携、人財活用と財務の安定、キャリアサポートの強化、リカレント教育の拡充、内部質保証の強化・見える化

・三田国際科学学園中学校・高等学校

三田国際科学学園としてサイエンス教育の発展

グローバル教育の加速

授業レベルの向上

生徒活動の充実

広報活動の向上・深化

業務効率化・生産性の向上

財務の安定

3. 教育研究に係る重点事業

(1) 戸板女子短期大学

①教育研究の質の向上及び充実

- ・国際コミュニケーション学科におけるフードモデルの教育体制整備
- ・服飾芸術科「パフォーマンス&アート・モデル」「ビューティ・モデル」における教育内容の充実
- ・授業力向上を目的としたFD・SD研修の充実
- ・産学連携・起業支援センターの機能強化
- ・2027年度教育改革（スマート・カスタムメイド・カレッジ）に向けた教育体制及び教育内容の整備
- ・教育実践研究の推進及び研究活動への支援
- ・教育環境の向上を目的とした施設・設備の整備

②学生支援の充実

- ・新入生支援体制強化（学生メンター制度スタート）
- ・合理的配慮を含めた学生支援体制の強化

③グローバル化の推進

- ・海外大学への留学、3年次編入学の推進
- ・安心して就職できる海外企業の開拓と就職支援

④社会貢献と地域連携

- ・港区企業、地域と連携した実践的教育プログラムの展開
- ・研究成果、専門知識の社会還元

⑤人財活用と財務の安定

- ・人財育成、最適活用と教職員交流の促進
- ・人事評価制度の検討・整備
- ・新たな収益源の開拓とコストダウン
- ・戦略的予算策定
- ・外部資金獲得

⑥キャリアサポートの強化

- ・履修モデルごとのキャリア形成を踏まえた就職支援プログラムの整備
- ・就職活動の早期化に対応した自己理解教育及びキャリア支援イベントの充実

⑦リカレント教育の拡充

- ・港区企業・団体と連携したリカレント教育の実施

⑧内部質保証の強化・見える化

- ・短大運営会議を中心としたPDCA体制の強化
- ・外部評価員を活用した自己点検のあり方の整備

(2) 三田国際科学学園中学校・高等学校

① 教育方針共通理解と実践の継続

- ・「発想の自由人」の育成
- ・12のコンピテンシー「共創・創造性・革新性・探究心・責任感・率先・問題解決能力・社会参画・異文化理解・生産性・コミュニケーション・リーダーシップ」の定着と向上

② サイエンス教育・グローバル教育の強化、推進

- ・AP(Advanced Placement)プログラムの導入による海外大進学の実現

④ 教員指導力の向上

- ・PBL（相互通行型授業）の推進
- ・全体教員研修（年間3回）の実施継続
- ・研究助成金支給による教育研究活動の推進

⑤ 教育環境の整備

4. 管理運営にかかる重点事項

(1) 事業部制の推進

短大事業、中高事業が自律性の高い運営を行うことを目的とし、事業部制を推進する。

- ・法人職員の各事業への異動と支出予算の各事業への配分
- ・各事業での経理、人事業務の完結化
- ・予備費の予算化

(2) 人事

- ・行政職の役職に次長、課長補佐を置き、役職制度のより円滑な運用を図る
- ・俸給表を4分割することにより、勤務成績に応じた昇給を実現する

(3) 施設整備

- ・中高外壁補修工事の実施

(4) 収支改善

- ・長期的な施設更新を見据え、収益性の改善に努める
- ・執行段階において、支出内容を精査し、不要不急の支出の抑制に努める

5. 令和8年度予算編成方針と予算の概要

(1) 予算編成方針

1. 収支差額に関する基本方針

収入に応じた支出予算を編成し、事業活動収支計算書経常収支差額の収入超過(黒字)予算を目指す。

2. 二大固定的費用について(人件費、設備関係費)

①人事計画基本方針

学生数に応じた職員配置を基本とし、人員配置計画に基づき、人件費予算を算定する。短期大学では補充採用を基本とする。ただし、四大計画に必要な人員については採用する。

中高では、生徒増加に応じた授業開講数の増加に伴う採用を認める。

②施設整備基本計画

中期営繕計画の見直し及び計画に基づいた建築設備の修繕を実施する。

緊急的な整備は最優先となることは言うまでもないが、緊急的ではない整備については、広報活動への寄与が高いものを優先する。

3. 予備費

予算主義による予算の硬直的な運用を防ぐため、予備費を予算化し、学長・校長の裁量による柔軟な支出を可能にする。

(2) 予算の概要

令和8年度の事業活動収支予算は、事業活動収入 30 億 9,652 万円(前期比△1,095 万円)、事業活動支出 34 億 4,372 万円(前期比△4,985 万円)、教育活動収支差額△3 億 4720 万円(前期比△4,985 万円)である。

主な収入は、学生生徒等納付金 21 億 8,995 万円、経常費補助金 7 億 9,943 万円、手数料 5,291 万円、主な支出は、人件費 18 億 3,929 万円、教育研究経費 12 億 4,866 万円、管理経費 3 億 5,576 万円である。

教育活動収支差額は△3 億 4720 万円(減価償却費 4 億 1,611 万円を除いた減価償却前では+6,891 万円)、基本金組入前当年度収支差額は△3 億 704 万円である。

6. 入学定員・収容定員

令和8年度の入学定員及び収容定員は下記のとおりである。

戸板女子短期大学

学 科	入学定員	収容定員
服飾芸術科	200	400
食物栄養科	—	80
国際コミュニケーション学科	200	320
計	400	800

三田国際科学学園中学校、高等学校

学 校 名	入学定員	収容定員
三田国際科学学園高等学校	188	564
三田国際科学学園中学校	160	480
計	348	1,044